

「一級河川由良川水系由良川上流圏域河川整備計画(変更)中間案(変更原案)」に対する意見募集結果

1 募集期間

令和7年9月30日(火)から令和7年10月21日(火)

2 提出意見数

17件(12名)

3 御意見の趣旨及びこれに対する府の考え方

No.	意見(原文ママ)	意見に対する京都府の考え方
1	<p>須知川河川改修の距離の想定が短い。</p> <p>[内容] 何年か前に須知川本町にある井堰より上流5.6km位まで護岸を越流し、本町43番地付近では腰のあたりまで水没し、商店の品々が流れて行く被害を受け、又、荒堀14番地付近では床下15～20cm位水没し、文化センターなどに避難された。</p>	<p>氾濫形態や地形条件、土地利用状況等を勘案し、高屋川合流点(0.0km地点)～京都縦貫自動車道(5.1km地点)までを計画対象区間としていたが、府民意見を踏まえ、現地状況等を精査した結果、計画対象区間を5.6km地点まで延伸します。</p> <p>整備内容については河道掘削、河道拡幅、遊水地で比較し、社会的影響や施工性、経済性などの観点から河道掘削が最適案と判断しています。</p> <p>今回の整備に伴い、当該地区では5年確率規模の降雨による洪水をH.W.L(堤防天端高-余裕高)以下で流下することが可能になります。</p> <p>また、過去に浸水被害が発生した平成26年台風11号と同規模の洪水については、水田は浸水するものの、人家浸水被害を解消できます。</p> <p>なお、平成16年台風23号及び平成25年台風18号については、整備目標である5年確率規模を大きく上回り、下流から更に大規模な整備が必要となるため、本計画では対応できません。</p>
2	<p>上記の件、河床掘削だけで無しに拡幅での改修を考えて欲しい。</p> <p>[内容] 河岸に人家がそびえ立ち、堤防と呼ばれる個所がなく今後に人的被害が想定される。</p>	<p>氾濫形態や地形条件、土地利用状況等を勘案し、高屋川合流点(0.0km地点)～京都縦貫自動車道(5.1km地点)までを計画対象区間としていたが、府民意見を踏まえ、現地状況等を精査した結果、計画対象区間を5.6km地点まで延伸します。</p> <p>整備内容については河道掘削、河道拡幅、遊水地で比較し、社会的影響や施工性、経済性などの観点から河道掘削が最適案と判断しています。</p> <p>今回の整備に伴い、当該地区では5年確率規模の降雨による洪水をH.W.L(堤防天端高-余裕高)以下で流下することが可能になります。</p> <p>また、過去に浸水被害が発生した平成26年台風11号と同規模の洪水については、水田は浸水するものの、人家浸水被害を解消できます。</p> <p>なお、平成16年台風23号及び平成25年台風18号については、整備目標である5年確率規模を大きく上回り、下流から更に大規模な整備が必要となるため、本計画では対応できません。</p>
3	<p>須知地区、床上浸水10年間に二度可動式堰堤の老朽化</p> <p>[内容] 地元須知において、由良川水系須知川では、この20年間で100年災害とも言われる家屋床上浸水を2度経験した。夜に車とも押し流す恐ろしい被害であった。 家屋では避難者50名以上が、また避難できない住民は自宅2階へと避難した。 地域では可動式堰堤上流680mが消防の防火用水として利用してきた。須知河川拡幅審議会を立ち上げて要望するも京都府から3度の青写真を頂いたがいまだに足ふみ状態が続いている。調査の上、図面も引いてもらったのだがどうなっているのか。</p>	<p>氾濫形態や地形条件、土地利用状況等を勘案し、高屋川合流点(0.0km地点)～京都縦貫自動車道(5.1km地点)までを計画対象区間としていたが、府民意見を踏まえ、現地状況等を精査した結果、計画対象区間を5.6km地点まで延伸します。</p> <p>整備内容については河道掘削、河道拡幅、遊水地で比較し、社会的影響や施工性、経済性などの観点から河道掘削が最適案と判断しています。</p> <p>今回の整備に伴い、当該地区では5年確率規模の降雨による洪水をH.W.L(堤防天端高-余裕高)以下で流下することが可能になります。</p> <p>また、過去に浸水被害が発生した平成26年台風11号と同規模の洪水については、水田は浸水するものの、人家浸水被害を解消できます。</p> <p>なお、平成16年台風23号及び平成25年台風18号については、整備目標である5年確率規模を大きく上回り、下流から更に大規模な整備が必要となるため、本計画では対応できません。</p>
4	<p>改修に伴う範囲を上流部(山崎橋)手前まで拡大して頂きたい。</p> <p>[内容] ①上流竹野地域での「みどり公社」による農地改良・河川の付け替えによって、台風の大雨時に土砂の堆積が増加して特に、湾曲した所では、アシやカヤが繁茂し河川断面積を一層減少させている。</p>	<p>氾濫形態や地形条件、土地利用状況等を勘案し、高屋川合流点(0.0km地点)～京都縦貫自動車道(5.1km地点)までを計画対象区間としていたが、府民意見を踏まえ、現地状況等を精査した結果、計画対象区間を5.6km地点まで延伸します。</p> <p>整備内容については河道掘削、河道拡幅、遊水地で比較し、社会的影響や施工性、経済性などの観点から河道掘削が最適案と判断しています。</p> <p>今回の整備に伴い、当該地区では5年確率規模の降雨による洪水をH.W.L(堤防天端高-余裕高)以下で流下することが可能になります。</p> <p>また、過去に浸水被害が発生した平成26年台風11号と同規模の洪水については、水田は浸水するものの、人家浸水被害を解消できます。</p> <p>なお、平成16年台風23号及び平成25年台風18号については、整備目標である5年確率規模を大きく上回り、下流から更に大規模な整備が必要となるため、本計画では対応できません。</p> <p>なお、流下阻害となる土砂堆積や樹木については、必要に応じて撤去するなど適切に管理してしていきます。</p>

5	<p>改修に伴う範囲を上流部(山崎橋)手前まで拡大して頂きたい。</p> <p>[内容] ②須知井根の年中湛水状況の為(台風以外の大雨では井根を落とさない)、土砂の堆積を助長している。</p>	<p>井堰の管理については管理者と調整させていただきます。 なお、流下阻害となる土砂堆積や樹木については、必要に応じて撤去するなど適切に管理してしていきます。</p>
6	<p>改修に伴う範囲を上流部(山崎橋)手前まで拡大して頂きたい。</p> <p>[内容] ③特に、須知区の荒堀から区文化センターまでの地盤が低く水没しやすい(写真参考)。</p> 	<p>氾濫形態や地形条件、土地利用状況等を勘案し、高屋川合流点(0.0km地点)～京都縦貫自動車道(5.1km地点)までを計画対象区間としていたが、府民意見を踏まえ、現地状況等を精査した結果、計画対象区間を5.6km地点まで延伸します。 整備内容については河道掘削、河道拡幅、遊水地で比較し、社会的影響や施工性、経済性などの観点から河道掘削が最適案と判断しています。 今回の整備に伴い、当該地区では5年確率規模の降雨による洪水をH.W.L(堤防天端高-余裕高)以下で流下することが可能になります。 また、過去に浸水被害が発生した平成26年台風11号と同規模の洪水については、水田は浸水するものの、人家浸水被害を解消できます。 なお、平成16年台風23号及び平成25年台風18号については、整備目標である5年確率規模を大きく上回り、下流から更に大規模な整備が必要となるため、本計画では対応できません。</p>
7	<p>改修に伴う範囲を上流部(山崎橋)手前まで拡大して頂きたい。</p> <p>[内容] ④2013年9月の台風18号発生時に、須知区荒堀地区に於いては、床上浸水及び増水被害により、我が家の農業倉庫では、出荷米や乾燥機・粃すり機等農業機械が水没し、甚大な被害を受けた。</p>	<p>氾濫形態や地形条件、土地利用状況等を勘案し、高屋川合流点(0.0km地点)～京都縦貫自動車道(5.1km地点)までを計画対象区間としていたが、府民意見を踏まえ、現地状況等を精査した結果、計画対象区間を5.6km地点まで延伸します。 整備内容については河道掘削、河道拡幅、遊水地で比較し、社会的影響や施工性、経済性などの観点から河道掘削が最適案と判断しています。 今回の整備に伴い、当該地区では5年確率規模の降雨による洪水をH.W.L(堤防天端高-余裕高)以下で流下することが可能になります。 また、過去に浸水被害が発生した平成26年台風11号と同規模の洪水については、水田は浸水するものの、人家浸水被害を解消できます。 なお、平成16年台風23号及び平成25年台風18号については、整備目標である5年確率規模を大きく上回り、下流から更に大規模な整備が必要となるため、本計画では対応できません。</p>
8	<p>須知川(荒堀地区)河川改修をお願いします。</p> <p>[内容] 先の台風による増水で床下浸水30cmと床下に土砂の流入などの被害に会いました。大水が出るたびに親戚宅に避難をしています。早期に河川を拡幅等の対処をお願い致します。</p>	<p>氾濫形態や地形条件、土地利用状況等を勘案し、高屋川合流点(0.0km地点)～京都縦貫自動車道(5.1km地点)までを計画対象区間としていたが、府民意見を踏まえ、現地状況等を精査した結果、計画対象区間を5.6km地点まで延伸します。 整備内容については河道掘削、河道拡幅、遊水地で比較し、社会的影響や施工性、経済性などの観点から河道掘削が最適案と判断しています。 なお、河道拡幅を実施する場合は、ほとんどの橋梁で架け替えが必要になり、事業費が河道掘削案を上回るうえ、工期も用地買収が必要になることから相当な期間を要することになります。 そのため、より効率的かつ経済的な工法として河道掘削を実施することとします。 今回の整備に伴い、当該地区では5年確率規模の降雨による洪水をH.W.L(堤防天端高-余裕高)以下で流下することが可能になります。 また、過去に浸水被害が発生した平成26年台風11号と同規模の洪水については、水田は浸水するものの、人家浸水被害を解消できます。 なお、平成16年台風23号及び平成25年台風18号については、整備目標である5年確率規模を大きく上回り、下流から更に大規模な整備が必要となるため、本計画では対応できません。</p>
9	<p>台風被害により自宅裏の須知川の氾濫により床下浸水の被害に合う。</p> <p>[内容] 台風:線状降水帯・短時間大雨、警報が出る度に心配しなければならぬ。早く須知川の整備をお願いしたい。 土砂がたまりすぎ。</p>	<p>氾濫形態や地形条件、土地利用状況等を勘案し、高屋川合流点(0.0km地点)～京都縦貫自動車道(5.1km地点)までを計画対象区間としていたが、府民意見を踏まえ、現地状況等を精査した結果、計画対象区間を5.6km地点まで延伸します。 整備内容については河道掘削、河道拡幅、遊水地で比較し、社会的影響や施工性、経済性などの観点から河道掘削が最適案と判断しています。 今回の整備に伴い、当該地区では5年確率規模の降雨による洪水をH.W.L(堤防天端高-余裕高)以下で流下することが可能になります。 また、過去に浸水被害が発生した平成26年台風11号と同規模の洪水については、水田は浸水するものの、人家浸水被害を解消できます。 なお、平成16年台風23号及び平成25年台風18号については、整備目標である5年確率規模を大きく上回り、下流から更に大規模な整備が必要となるため、本計画では対応できません。 なお、流下阻害となる堆積土砂や樹木については、必要に応じて撤去するなど適切に管理してしていきます。</p>

10	<p>現在、須知区の環境委員をしておりますが平成30年から提示されております住民要望に対し、この計画に入っているものがあると思います。</p> <p>[内容] 須知区本町周辺で過去に床上、床下浸水したところがあり、16ページの地図からはずれております。 築堤をして頂く必要があると思います。 ぜひ共住民の要望をくみとって頂きたくよろしくお願い致します。</p>	<p>氾濫形態や地形条件、土地利用状況等を勘案し、高屋川合流点(0.0km地点)～京都縦貫自動車道(5.1km地点)までを計画対象区間としていたが、府民意見を踏まえ、現地状況等を精査した結果、計画対象区間を5.6km地点まで延伸します。</p> <p>整備内容については河道掘削、河道拡幅、遊水地で比較し、社会的影響や施工性、経済性などの観点から河道掘削が最適案と判断しています。</p> <p>なお、河道拡幅を実施する場合は、ほとんどの橋梁で架け替えが必要になり、事業費が河道掘削案を上回るうえ、工期も用地買収が必要になることから相当な期間を要することになります。</p> <p>そのため、より効率的かつ経済的な工法として河道掘削を実施することとします。</p> <p>今回の整備に伴い、当該地区では5年確率規模の降雨による洪水をH.W.L(堤防天端高-余裕高)以下で流下することが可能になります。</p> <p>また、過去に浸水被害が発生した平成26年台風11号と同規模の洪水については、水田は浸水するものの、人家浸水被害を解消できます。</p> <p>なお、平成16年台風23号及び平成25年台風18号については、整備目標である5年確率規模を大きく上回り、下流から更に大規模な整備が必要となるため、本計画では対応できません。</p> <p>築堤(盛土)については、現況堤防高が計画堤防高より低い箇所を実施します。</p>
11	<p>須知川流域に居住している須知区の評議員をしている者です。 須知川の改修は、地域住民の要望として平成30年に要望書を提出して依頼の課題と行政に対して大きな要望事項となっています。 本計画中に要望を出している区域が含まれておらず、行政に対する不信任感が募っています。 今一度計画の見直し・検討をお願いします。</p> <p>[内容] 本町橋を起点として本町橋上流(上流約200m)で河川氾濫が頻発しています。(堤防の決壊、床上床下浸水など) 河川の蛇行や川底の土砂の堆積など課題や問題も多く、整備改修の最重要箇所だと認識しています。 今一度対象区域を本町橋上流200mまで広げての計画の見直しをお願いします。</p>	<p>氾濫形態や地形条件、土地利用状況等を勘案し、高屋川合流点(0.0km地点)～京都縦貫自動車道(5.1km地点)までを計画対象区間としていたが、府民意見を踏まえ、現地状況等を精査した結果、計画対象区間を5.6km地点まで延伸します。</p> <p>整備内容については河道掘削、河道拡幅、遊水地で比較し、社会的影響や施工性、経済性などの観点から河道掘削が最適案と判断しています。</p> <p>今回の整備に伴い、当該地区では5年確率規模の降雨による洪水をH.W.L(堤防天端高-余裕高)以下で流下することが可能になります。</p> <p>また、過去に浸水被害が発生した平成26年台風11号と同規模の洪水については、水田は浸水するものの、人家浸水被害を解消できます。</p> <p>なお、平成16年台風23号及び平成25年台風18号については、整備目標である5年確率規模を大きく上回り、下流から更に大規模な整備が必要となるため、本計画では対応できません。</p>
12	<p>須知川、本町橋上流の改修について</p> <p>[内容] 河川整備計画(変更原案)から、本町橋周辺が入っていない。 過去に氾濫し水害(家屋、田、畑)になったことを踏まえて、本町橋上流の整備を願いたい。</p>	<p>氾濫形態や地形条件、土地利用状況等を勘案し、高屋川合流点(0.0km地点)～京都縦貫自動車道(5.1km地点)までを計画対象区間としていたが、府民意見を踏まえ、現地状況等を精査した結果、計画対象区間を5.6km地点まで延伸します。</p> <p>整備内容については河道掘削、河道拡幅、遊水地で比較し、社会的影響や施工性、経済性などの観点から河道掘削が最適案と判断しています。</p> <p>今回の整備に伴い、当該地区では5年確率規模の降雨による洪水をH.W.L(堤防天端高-余裕高)以下で流下することが可能になります。</p> <p>また、過去に浸水被害が発生した平成26年台風11号と同規模の洪水については、水田は浸水するものの、人家浸水被害を解消できます。</p> <p>なお、平成16年台風23号及び平成25年台風18号については、整備目標である5年確率規模を大きく上回り、下流から更に大規模な整備が必要となるため、本計画では対応できません。</p>
13	<p>令和7年に示された整備計画中間案を拝見したが、当地区において最も危険性の高い本町地区地点が含まれていない懸念があります。</p> <p>[内容] 当該地点は過去に浸水被害を受けており、周辺には高齢者世帯も多く氾濫時の避難が困難な状況です。 住民の生命・財産を守る為、本町地区を整備計画に加えていただき、早期に改修工事が実施されますよう要望いたします。</p>	<p>氾濫形態や地形条件、土地利用状況等を勘案し、高屋川合流点(0.0km地点)～京都縦貫自動車道(5.1km地点)までを計画対象区間としていたが、府民意見を踏まえ、現地状況等を精査した結果、計画対象区間を5.6km地点まで延伸します。</p> <p>整備内容については河道掘削、河道拡幅、遊水地で比較し、社会的影響や施工性、経済性などの観点から河道掘削が最適案と判断しています。</p> <p>今回の整備に伴い、当該地区では5年確率規模の降雨による洪水をH.W.L(堤防天端高-余裕高)以下で流下することが可能になります。</p> <p>また、過去に浸水被害が発生した平成26年台風11号と同規模の洪水については、水田は浸水するものの、人家浸水被害を解消できます。</p> <p>なお、平成16年台風23号及び平成25年台風18号については、整備目標である5年確率規模を大きく上回り、下流から更に大規模な整備が必要となるため、本計画では対応できません。</p>

14	<p>河川の氾濫が起こらないよう様要望する。</p> <p>[内容] H16年10月20日台風23号が京丹波町に大きな被害水害をもたらした。須知本町街道も大きな被害となり、河川氾濫で田、畑が全滅した。上流の橋が壊れその水が本町に流れ込み多くの家屋が床上浸水となった。胸まで水位があり川の流れと同じで大変危険な状態であった。私は自営業のため、1週間ほど休業となり、大きな損害を受けた。又H25年9月16日台風18号で2回目の浸水に合い台風23号と同じ被害に合った。最近の雨量は昔と違い竹野地区ばかり川幅を広げた工事してもらっても須知では川幅が狭くなるので氾濫してしまうのではないのでしょうか。整備区間は5,100mの拡幅工事を強く要望する。</p>	<p>氾濫形態や地形条件、土地利用状況等を勘案し、高屋川合流点(0.0km地点)～京都縦貫自動車道(5.1km地点)までを計画対象区間としていたが、府民意見を踏まえ、現地状況等を精査した結果、計画対象区間を5.6km地点まで延伸します。</p> <p>整備内容については河道掘削、河道拡幅、遊水地で比較し、社会的影響や施工性、経済性などの観点から河道掘削が最適案と判断しています。</p> <p>なお、河道拡幅を実施する場合は、ほとんどの橋梁で架け替えが必要になり、事業費が河道掘削案を上回るうえ、工期も用地買収が必要になることから相当な期間を要することになります。</p> <p>そのため、より効率的かつ経済的な工法として河道掘削を実施することとします。</p> <p>今回の整備に伴い、当該地区では5年確率規模の降雨による洪水をH.W.L(堤防天端高-余裕高)以下で流下することが可能になります。</p> <p>また、過去に浸水被害が発生した平成26年台風11号と同規模の洪水については、水田は浸水するものの、人家浸水被害を解消できます。</p> <p>なお、平成16年台風23号及び平成25年台風18号については、整備目標である5年確率規模を大きく上回り、下流から更に大規模な整備が必要となるため、本計画では対応できません。</p> <p>また、流下阻害となる堆積土砂や樹木については、必要に応じて撤去するなど適切に管理してまいります</p>
15	<p>現在須知区長をしており、平成30年当時から提示されている住民要望に対して本計画の效果に懸念点がございます。</p> <p>[内容] ①須知本町周辺(過去の浸水箇所)がP16の地図から外れている。</p>	<p>氾濫形態や地形条件、土地利用状況等を勘案し、高屋川合流点(0.0km地点)～京都縦貫自動車道(5.1km地点)までを計画対象区間としていたが、府民意見を踏まえ、現地状況等を精査した結果、計画対象区間を5.6km地点まで延伸します。</p> <p>整備内容については河道掘削、河道拡幅、遊水地で比較し、社会的影響や施工性、経済性などの観点から河道掘削が最適案と判断しています。</p> <p>今回の整備に伴い、当該地区では5年確率規模の降雨による洪水をH.W.L(堤防天端高-余裕高)以下で流下することが可能になります。</p> <p>また、過去に浸水被害が発生した平成26年台風11号と同規模の洪水については、水田は浸水するものの、人家浸水被害を解消できます。</p> <p>なお、平成16年台風23号及び平成25年台風18号については、整備目標である5年確率規模を大きく上回り、下流から更に大規模な整備が必要となるため、本計画では対応できません。</p>
16	<p>現在須知区長をしており、平成30年当時から提示されている住民要望に対して本計画の效果に懸念点がございます。</p> <p>[内容] ②築堤の必要性があるのではないかと(改修イメージ図への明記なし)</p>	<p>氾濫形態や地形条件、土地利用状況等を勘案し、高屋川合流点(0.0km地点)～京都縦貫自動車道(5.1km地点)までを計画対象区間としていたが、府民意見を踏まえ、現地状況等を精査した結果、計画対象区間を5.6km地点まで延伸します。</p> <p>整備内容については河道掘削、河道拡幅、遊水地で比較し、社会的影響や施工性、経済性などの観点から河道掘削が最適案と判断しています。</p> <p>なお、河道拡幅を実施する場合は、ほとんどの橋梁で架け替えが必要になり、事業費が河道掘削案を上回るうえ、工期も用地買収が必要になることから相当な期間を要することになります。</p> <p>そのため、より効率的かつ経済的な工法として河道掘削を実施することとします。</p> <p>今回の整備に伴い、当該地区では5年確率規模の降雨による洪水をH.W.L(堤防天端高-余裕高)以下で流下することが可能になります。</p> <p>また、過去に浸水被害が発生した平成26年台風11号と同規模の洪水については、水田は浸水するものの、人家浸水被害を解消できます。</p> <p>なお、平成16年台風23号及び平成25年台風18号については、整備目標である5年確率規模を大きく上回り、下流から更に大規模な整備が必要となるため、本計画では対応できません。</p> <p>築堤(盛土)については、現況堤防高が計画堤防高より低い箇所を実施します。</p>
17	<p>本計画に対する懸念点</p> <p>[内容] 須知区本町周辺(過去に何度か浸水した箇所)がP16の整備区間から外れているので再度見直しを含め検討して頂きたい。</p>	<p>氾濫形態や地形条件、土地利用状況等を勘案し、高屋川合流点(0.0km地点)～京都縦貫自動車道(5.1km地点)までを計画対象区間としていたが、府民意見を踏まえ、現地状況等を精査した結果、計画対象区間を5.6km地点まで延伸します。</p> <p>整備内容については河道掘削、河道拡幅、遊水地で比較し、社会的影響や施工性、経済性などの観点から河道掘削が最適案と判断しています。</p> <p>今回の整備に伴い、当該地区では5年確率規模の降雨による洪水をH.W.L(堤防天端高-余裕高)以下で流下することが可能になります。</p> <p>また、過去に浸水被害が発生した平成26年台風11号と同規模の洪水については、水田は浸水するものの、人家浸水被害を解消できます。</p> <p>なお、平成16年台風23号及び平成25年台風18号については、整備目標である5年確率規模を大きく上回り、下流から更に大規模な整備が必要となるため、本計画では対応できません。</p>